

1/4λ シフト分布帰還型 (DFB) レーザ

1984 年（昭和 59）に、伝送用光デバイスのキーデバイスである 1.55μm 波長帯 1/4 λ シフト分布帰還型レーザを世界に先駆けて実現させ、このレーザが単一波長動作と副モード抑圧比に優れていることを証明した。1/4 λ シフトの微細構造を実現するため、ネガ・ポジ法と呼ばれる独自の露光技術を開発した。寿命試験でその高信頼性を実証し、TPC-4 に導入された。その後、現在でも 1.55μm 波長帯 1/4 λ シフト DFB レーザは、高い波長選択性を有するため、精密な波長制御を要する WDM 光源として、世界中のメーカーで商品化・販売されている。

出典：KDD 社史